
素晴らしきこの世界

リリィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

素晴らしきこの世界

【Nコード】

N5397Z

【作者名】

リリイ

【あらすじ】

頭の残念なヘタレ魔王と男勝りな人類最強王女の血塗れラブコメディ。たまにシリアスが入るはず！でもほとんどシリアスなにそれ美味しいの？状態。

贈り物はよく考え贈れ！

久々に魔王らしいことをしようとして地上へと足を運んだ。
そもそもその思いつきが間違いだっただ。

煌びやかな室内にうんざりしながらも、逃げ惑う着飾った人間達に
自然と笑みが零れる。

「貴方達の言葉では”今日は”かな？国王？」

「…何の用だ」

権力ある者が必死になる姿は実に滑稽だった。

「用など決まっているではないか。私も祝福しに来たのだよ。未来
の国を継ぐ者の誕生を」

「くッ、貴様を呼んだ覚えなど無い！」

「おお、怖い。そんな大声では腹の子に響く。王妃も大変だな」

一歩、また一歩と魔王は玉座の二人に近づく。
正しくは王妃に宿っている新しい命に。兵に囲まれようが、槍を構
えられようがお構い無しに歩を進め魔王は笑みを浮かべた。

「受け取れ。私からの”祝福”だ」

ある大陸にとても大きな国がありました。

その国はとても豊かで美しく平和な所です。

しかしある日、国の真ん中に大きな時計塔が建てられました。

民に時間を知らせるでも為ではなく、はたまた都の新しいシンボルでもありません。

その時計塔はひとりの王女を守る為の大きな鳥籠でした。

王女は産まれる前に魔王に恐ろしい呪いをかけられ時計塔から出ることも許されないのです。

王女は独り淋しくその時計塔の中で魔王にかけられた呪いと共に長い時を過ごしました。

3

十数年が経ち、王女の呪いが解ける時が来ました。

塔の頂上にはこの時計塔の主の王女が住んでいます。

現れた魔王に王女は言いました。

「コレが俺に”強さ”を与えた魔王か」

王女は地面からおどろおどろしく出てくる筈だった魔王の頭を踏みつけました。

「え？ちよ、まッ」

「貴様のお陰で俺がどれほど苦労した事か…」

死神をも凍らす冷たい双眼を向けて軽やかに詠います。

「死んで詫びろ」

その笑顔はとても爽やかで美しいものでした。

…そう、十六年も魔王に呪われ、窮屈な塔に閉じ込められた王女様はそれはそれは立派にグレてしまったのでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5397z/>

素晴らしきこの世界

2011年12月18日03時50分発行